

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 菊陵 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

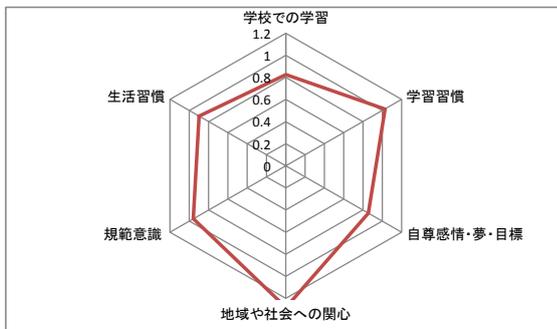
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	無解答率は北九州市の平均と同等であるが、記述式の問題に課題がある。特に、解答の文字数が多い問題に対する課題は大きい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題。	
	努力が必要な問題	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文章を書く問題。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	国語Aと同様、「書く力」に課題がある。また、問題文を読み解く力の不足から、誤答率や無解答率が高くなっている。特に、無解答の割合が高く、大きな課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立っているかを問う問題。	
	努力が必要な問題	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く問題。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	図形の正式名称や基礎的な計算など、基礎基本の定着に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	絶対値の意味を理解しているかを問う問題。	
	努力が必要な問題	半円を、その直径を軸として回転させると球が構成されることを理解しているかを問う問題。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	問題文を解釈するや説明力、問題文の長い設問に取り組む意欲に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるかを問う問題。	
	努力が必要な問題	不確かな事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明する問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	基礎的・基本的な知識や技能に課題がある。また、選択問題の無解答率が高い一方で、記述問題の無解答率は高く、粘り強く問題に取り組む意欲にも課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	消化とはどのような働きかを選ぶ問題。	
	努力が必要な問題	電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身につけているかどうかを問う問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○家庭での学習習慣は、全国平均値と比較すると概ね定着しているが、計画を立てて学習する点や主体的に学習に向かう点に課題がある。
○規範意識という観点から生活を見ると全国平均値とほぼ同等であるが、朝食を食べない生徒の割合が多いため、家庭と連携して食育を進めていく必要がある。
○人の役に立つ大人になりたいと答えた生徒が多い一方で、将来の夢が持てないと答えた生徒も多く、生徒の中での葛藤がうかがえる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

基礎基本の徹底に努めるとともに、まとめや振り返りを自分の言葉で書かせる指導を全教科で行うなど「書く力」の向上に取り組む。
また、1日1ページノートの取組や教科コンクールの取組を継続して行い、全体で評価することで学習意欲の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

食育担当を中心に、家庭、栄養教諭と連携し食育を推進していく。また、ローテーション道徳を実施するなどして道徳教育を充実させることで、将来の目標を持って学習や行動する実践力を培う。